

明日の漁業を語る



泉 保匡

1980年生まれ。大阪府出身。
2022年に父の故郷下関に移住し、
伯父が経営する株式会社泉水水産で
勤務を開始。中型まき網漁業を行う。



村下 真生

1986年生まれ。下関市出身。市内
民間企業(造船業)を退職後、2021
年に漁業の独立経営を開始。漁法
の幅を広げつつ、一本釣り等を行う。

明けましておめでとうございます。
市長の前田晋太郎です。

市民の皆さまにおかれましては、
令和6年の新春を健やかに迎え
のこととお慶び申し上げます。

昨年は新捕鯨母船「関鯨丸」の母
港化の決定など下関の水産業に関
する明るい話題が多くありました。
そこで、今年の新春対談は、3人
のニューフィッシャー(新規漁業
就業者)をお迎えし、この対談を
通じて、市民の皆さまに、下関の
漁業を身近に感じていただければ
うれしく思います。

本年もどうぞよろしく願いま
たします。

漁師になるまでの道のり

市長 皆さんが漁師にチャレンジ
をしたきっかけは何ですか？

武井 私は元々、東京で15年間シ
ステムエンジニアとして会社勤め
をしていました。時間に追われる
日々で「せめて家に帰った時に、
家族と一緒に夕飯を食べたい」と
いう強い想いや、いろいろな要因
があり、思い切って退職したんで
す。その時点では、漁師をやりたい



前田 晋太郎

1976年生まれ。下関市出身。長崎大学水産学部を卒業後、2011年に下関市議会議員に初当選。2017年から下関市長に就任(2期目)。

※敬称略

対 新 春 談

武井 聡

1974年生まれ。神奈川県出身。家族と共に下関への移住を決意し、2015年に漁業の独立経営を開始。主にわかめ養殖等を行う。



市長 すごい小学生ですね(笑)! 釣り好きから漁師へ。何より説得力がありますね。泉さんはいかがですか?

小学生の頃の私は、漫画「釣りキチ三平」みたいな子どもで、ブラックバスを釣りに1人で電車を乗り継いで、関東圏内の他県へ遠出したりして。サラリーマン時代も、どんなに忙しくても、休暇の夜にはスズキを釣りに行っていました。

退職後、知人のついでで農業に関わり、自然の中で汗を流すうちに、気持ちが一産業に傾いていきました。いろいろと模索し、最終的に漁師の道を決断したのは、私が根っからの釣り好きだったからです。

いとはまったく思っていないんです。

泉 私は、泉水産のまき網漁業は「誰か」が継承し、続いていくものだと思います。大阪で勤めていた頃、父から「いつかは泉水産がなくなるかもしれない」と聞き、「なぜ俺は漁船に乗っていないんだらう」と居たたまれない気持ちになりました。以前、泉水産で働きたいと父に相談した時に「簡単に漁師ができると思ったら大間違いだ。覚悟が足りない」と言われました。

市長 厳しい身内の声ですね。何歳の頃の話ですか？

泉 30歳代半ばです。考えに考えて、今自分にできることをやって筋を通そうと、決意したのが41歳。漁師になる方法や漁師への支援制度を調べて、1級船舶免許を取得した上で、もう一度、父に想いを伝えました。父は「自分の言葉で



社長に伝えてみる！ 決めるのは社長だ」と言いました。

泉水産の社長にお会いした時はかなり緊張しました。「40歳を超えた私を、果たして受け入れてくださるだろうか。もし追い返されたら、他で乗組員として修行を積んで出直そうか…」そんな心境でした。社長に頭を下げ、想いを告げたところ、社長に「やる気があるならやってみろ」と言っていたのでした。今は仕事で結果を出したいと思っています。

市長 大阪から下関に、本当に腹をくくって：壮絶な覚悟ですね。

泉 下関に骨を埋める覚悟で、泉水産にいます。

市長 村下さんはいかがですか？

村下 僕は造船所で働いていた時に「何か物足りないのか？」という人生が終わるのか…という気持ちがありました。いろいろなチャレンジをしてみました。何がしたいか思い付かない…。そこで「何が好きか」を考え、たどり着いたのが釣りでした。

そんな時に、タイミング良く、山口県漁業協同組合主催の漁業就業支援フェアを知り、すぐに調べ



て参加しました。

市長 フェアはどうでしたか？

村下 各ブースが大勢の参加者がいました。釣りが好きという理由で一本釣りができるブースを探していて、下関市内の二見支店に1枠募集を見つけて、チャレンジした結果、研修生として受け入れていただきました。

市長 村下さんが獲ったあのタイ（表紙写真）も一本釣りですか？

村下 あれは「落とし込み釣り（一本釣りの一種）」でしたね。時期によつて漁法を変えています。

私たちが発見した下関の魅力

市長 武井さんはどうして下関を選ばれたんですか？

武井 結局、私も漁業就業支援フェアです。福岡県で開催されると



聞いて、物は試しに行ってみました。全国版の漁業就業支援フェアで、北は青森から南は鹿児島までのブースがありました。一本釣りをメインに探す中で「一本釣りじゃあ飯は食えん！」と各ブースで言われ「駄目なのかな？」と思っていたところ、最後に訪れたのが下関南風泊支店だったんです。一本釣りを掲げていた看板の横に「わかめ養殖で半年分の収入が得られる」とあったので、詳しく話を聞きました。規模が大きくない商売でも十分生活できると後押しという言葉を頂いて「ビビッ」と。絶対にここがいいなと思いました。研修を終え、ご縁があつて組合員にさせていただきました。

市長 ご家族の反応はどうでしたか？ お子さんもうらっしゃいますよね。東京のシステムエンジン



▲武井さん「わかめ養殖」



アから一転、ご家族は「辞めて漁師で下関。何で？」ってなりませんでしたか？

武井 実は、妻は田舎暮らしにこれがなくて「移住」という気持ちがあったんです。下関は山も海もすぐ近くにあって自然豊かですよね。東京みたいな都会ではないけれど不自由がない。すごく住みやすいです。子どもが小さかったことも考えると、今思えば、下関に移住して良かったなと思います。

言い方がすごく難しいですけど「トカイナカ(都会と田舎の間)」。怒られちゃいますかね？

市長 「トカイナカ」、私たちはその辺りを目指しています。都市機能がそこそこあって、住みやすくゆったりした時間を過ごせるまちはですね。たまの休みに「これをやろう！」って思い立ったらすぐに出掛けられる。そうやって羽を伸ばす人生も面白いと私は思います。
泉 大阪から来た私も特に不自由はないです。住まいは、水産の倉庫を改装した寮のような建物に、漁業の大ベテランの方々と一緒に住んでいて、いろいろ漁業のことを教わっています。

市長 村下さんは、下関出身ですけど、漁師になる前と後で、下関の海の見え方に变化などありましたか？

村下 漁師になる前は、穏やかな下関の海しか知りませんでした。実際に海に出ると、波が立つと怖いし、不安がよぎります。それでもやはり、良いものは良いと感じます。朝日や夕日、それに海に囲まれ、自然の中で仕事ができるのは、すごいパワーをもらえます。

市長 よく分かります！ 私は夏は必ず海に飛び込んで、頭の前からつま先まで全身をリセットさせます。目に見えないパワーを感じるんですよね。

一同 (うなずく)

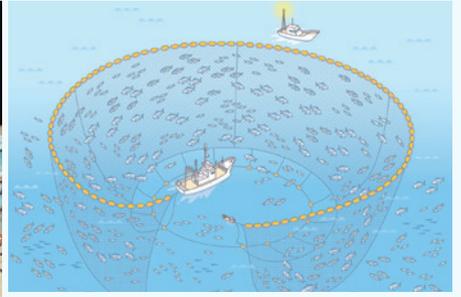
漁業の楽しさや、やりがい
そして苦労

武井 沖に出る前に「あそこに行くぞ」と漁場を予測して、魚の大群に当たったときに楽しさを感じます。「キターッ」って思いますね。あとは、努力した分だけ収入に返ってくる可能性があることです。もちろん、駄目なときもあります。明日以降の成果に必ずつながります。

泉 たくさんの魚が獲れたときにやりがいを感じます。まき網漁業は、自分1人でやっているわけではなく、乗組員同士が連携して漁網で魚群を囲い込み、一網打尽にして捕らえます。魚がたくさんか



▲村下さん「一本釣り」



魚群探知機、ソナー、目視などで魚群を発見すると、魚種にあった漁網で巻き、運搬船に積み上げて漁獲します。

▲泉さん「中型まき網漁業」

かると、なかなか網が揚がらないときもあります。逆に魚群を発見できずに、帰港するときもあります。そのときはどうしようもないですね(笑)。

市長 何隻で魚を獲りに行くんですか？

泉 5隻(本船、運搬船2隻、探索船2隻)です。蓋井島沖から角島沖の海域で、夜中0時を目途に操業を開始します。1セット2時間程度の作業を2セット。早朝5時ごろ仕事を終え、帰港する。無事に帰ると「ホッ」とします。

市長 私は、大学の実習でまき網漁業を経験しなくてはいけなかったんです。1カ月間の海上での生活です。遠洋漁業でインドネシアの沖(赤道辺り)の大海原。島も何もない所で漂流して浮いている流木を探しました。その下に魚が「ドワツ」といるんです。魚が少ないと判断したら流木にレーダーを設置して、また2、3日探す…。漁場が決まったら、深夜2時から200mの網を引き揚げる。そして甲板作業。皆さんは海に出るのが日常ですよ。すごいです。

泉 時化がなければですね。

市長 それもありますね。毎日、波が違いますからね。

泉 社長が出港するかどうか判断するんですけど、安全を最優先に考えているので、波の高さが1.5mあれば、あまり出港はしないです。

市長 一本釣りだったらどうですか？

村下 出港しないですね。海の波長にもよりますけど。

市長 船を出せない日もあるから、自分の時間の使い方が劇的に変わったんじゃないですか？

村下 そうですね。漁師は休みが多い、それは僕にとって嫌ではないです。自分の時間がつくれます。漁師の楽しさは、自分で考えた道具がまったときに感じます。最高にうれしいです。針の大小、糸の太さ、ほんのちよっとしたことばですけど。

市長 せっかく良い獲物(魚)を獲っても「これくらい」の値段でしか買ってくれない」って世界もあるでしょ？

武井 逆に魚価に浮き沈みがあるから面白いというのがあります。時化のときに頑張って出港して、

市場で「ドンツ」と魚価が驚くほど跳ね上がる時があります。魚を活かした状態で市場に持って行くと、とても良い値になることもあります。

下関の漁業をもっと盛り上げるため

市長 これは大事ですね。下関の漁業をもっと盛り上げるためには何が足りないですか？ 我々行政に届いていないところを教えてください。

泉 伊崎町の漁師は高齢化し、漁師人口も減っています。ですので、若い人が漁業に興味を持ってもらえるような漁業が盛り上がると思います。簡単な作業を…例えばアルバイトなどで携わってもらえる環境があれば、その経験はいつか漁師の道につながる可能性があるのではないかと思います。あとは、魚の需要が増えてくれれば。

市長 日本の食卓が西洋化してきて、魚を食べなくなっていますね。下関の魚はおいしいのに…！昔は唐戸市場でも仲買、鮮魚を扱う方々、それに魚を買う市民でにぎ



▲ニューフィッシャーらが前田市長に、実際使用している漁具の構造や工夫点などを解説している様子

わっていたのに。何とか魚のおいしさを伝えていきたいですね。

村下 魚は処理などが面倒くさいですよ。魚をさばくとうとうしても台所が汚れたり、魚の臭みとかが嫌いだったりすると思うんですが、実は処理の仕方でも解決できます。あとは、魚の値段が高いから手が出しづらいのかも。でも本当は皆さん、結構魚が好きなのがしています。

市長 11月23日の「下関さかな祭」も多くの人が魚をたくさん買って帰っていましたね。

ニューフィッシャーが語る夢

市長 これからの皆さんの夢を聞かせてください。

武井 約10年間漁師を続けて、ある程度までできました。(わかめを加工する時期に)妻が手伝ってくれて感謝しています。今後はもっと漁の幅を広げて、安定した生活基盤をつくっていききたいと思っています。漁師は定年がありませんので、体が動かなくなるまで切磋琢磨してやっていきたいです。死ぬ間際に「漁師をやっていて良かったな」と

思っています。

泉 泉水産をなくさないようにしていくことです。私が学生の頃、先代の社長に「何事も1番を目指してきた。誰よりも多く魚を獲ることをずっと考えてきた」と言われました。その言葉を噛み締め、泉水産で働く中で、まき網漁業がその方法の1つなのだのと理解しました。まき網漁業ができる泉水産を継承していきたいです。

村下 漁師をずっと続けていきたいです。いつも自分が釣った魚を丁寧に神経締めして、鮮度を保てるようにしています。将来は、自分が獲った新鮮な魚を、キッチンカーなどを使って皆さんに提供できればと考えています。面倒な魚の処理は私たちが担って、まずは皆さんに魚を食べてもらいたい。それが私の夢です。そのためには、まず漁の腕を磨くこと。魚が獲れなきゃ提供できませんから(笑)。
市長 皆さん、それぞれ素晴らしい夢があり、楽しみです。これからも応援しています！本日、たくさんのお話を頂き、下関の漁業の明るい未来が見えた気がします。ありがとうございました。